

4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 1 年度目（令和 6 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		2,814	t-CO ₂
（温① 二室を 酸効除 化果く 炭ガ 素換 排出 量）	②非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	③メタン		t-CO ₂
	④一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑤ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑥パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑧三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑨エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
温室効果ガス総排出量（①～⑨合計）		2,814	t-CO ₂

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	原単位排出量
------------------	--------

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績				
	令和 5 年度		令和 8 年度		令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度		
温室効果ガス総排出量		t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂	t-CO ₂
削減率（対基準年度）			%		%	%	%	%	%
温室効果ガスみなし総排出量						t-CO ₂		t-CO ₂	t-CO ₂
削減率（対基準年度）					%	%	%	%	%

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績				
	令和 5 年度		令和 8 年度		令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度		
原単位当たりの排出量	0.1239	t-CO ₂ / m ²	0.1202	t-CO ₂ / m ²	0.1273	t-CO ₂ / m ²		t-CO ₂ / m ²	t-CO ₂ / m ²
削減率（対基準年度）			3.0	%	▲ 2.7	%	%	%	%
原単位当たりのみなし排出量						t-CO ₂ / m ²		t-CO ₂ / m ²	t-CO ₂ / m ²
削減率（対基準年度）					%	%	%	%	%

（2）進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

非達成となった。排出量増加の要因として、空調設備の稼働率が高かったためと考える。特に7～10月は例年に比べて平均気温が2～4℃高く、施設の性質（特別養護老人ホーム）を鑑みれば致し方ないと考える。

備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。

備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。

備考3 原単位当たりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量当たりの温室効果ガス排出量をいいます。

備考4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び非化石エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制等に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標	取組の実施状況
省エネルギー・省資源の行動の実践・冷暖房設定の目安	<ul style="list-style-type: none"> ・冷房28℃、暖房20℃を徹底する。(特別養護老人ホームの区画を除く) ・冷暖房運転を外気温と連動する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設利用者の様態変化に日々対応させながら、フロアー職員の協力のもと取り組みたい。 ・冷房・暖房運 	
省エネルギー・省資源の行動の実践・照明器具更新	<ul style="list-style-type: none"> ・使用していない部屋や昼休み・時間外の消灯を徹底する。 ・照明器具更新 	施設利用者の様態変化に日々対応させながら、フロアー職員の協力のもと取り組みたい。	
省エネルギー・省資源の行動の実践・一部OA機器の更新	<ul style="list-style-type: none"> ・パソコンを90分以上操作しない時や退社時の電源オフを徹底する。 ・コピー機の退社時の電源オフを徹底する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・パソコンを90分以上操作しない時や退社時の電源オフを徹底する。 ・コピー機の退社時の電源オフ 	
自動車等輸送機関に関する対策。	<ul style="list-style-type: none"> ・急発進、急加速を控え、アイドリングストップの確実な励行等エコドライブを推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・急発進、急加速を控え、アイドリングストップの確実な励行等エコドライブを徹底する。 	

(2) 非化石エネルギーの利用の状況

ア 非化石電気の使用状況

指標	非化石電気の使用状況						目標 (2030年度)	
	令和 6年度		令和 7年度		令和 8年度			
使用電気全体に占める 非化石電気の比率	17.4	%		%		%		%

イ 計画期間 1 年度目 (令和 6 年度) における非化石エネルギーの利用状況

非化石エネルギーの使用量	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
kl	t-CO ₂

(3) 未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 1 年度目 (令和 6 年度) における未利用エネルギーの利用状況

導入年度	設備等の種類	概要 (規模、性能、発生エネルギー量等)

イ アのうち、他のものに供給した電力及び熱

区分	未利用エネルギーの種類	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)	
電力			t-CO ₂
熱			t-CO ₂

(4) 環境価値 (クレジット等) の活用の状況

計画期間 1 年度目 (令和 6 年度) におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

(5) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量 (みなしの削減量) の合計

t-CO ₂

(6) 電気の需要の最適化に資する措置を実施した日数

日

(7) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

照明器具のLED化を実施 (約400台)

(8) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況